TELEC-T161

700MHz帯~4.9GHz帯を使用する シングルキャリア周波数分割多元接続方式又は 直交周波数分割多元接続方式携帯無線通信を行う **勝上路動局及びローカル5 Gの勝上路動局** の無線設備

(700MH = #~4.9GH = # SC-FDMA又はOFDMA携帯無適信 陸上移動局及びローカル 5 G 陸上移動局) の特性試験方法

#6. O服 全和7年4月30日

	* * * *	* * * *
	一批字项	6 C-P DMAXRO F DMA 由上字 数
1	政治が会の信息政策	
•	(1) 証明規則第2条第1項第11分の30に	場ける無路設備
	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	一号から第三号までに係る部分に限る。) 及
		られている物上体動品に使用するための無線
	(85.85)	
	2. 36(t): 第~4. 96(t): 第5C-70(t): X (1 0F)(t): 数	常新政治信贷上件款 员
	(2) 証明規則第2条第1項第11号の30の	3に掲げる無線設備
	設備規則第49条の6の12第1項(第	一号、第二号及び第五号に係る部分に限る。
	及び第7項においてその無線設備の条件が2	定められている陸上移動局に使用するための
	総政備	
	(略称)	
	2. 36 fts 帝 ~ 4. 96 fts 帝 5C - FD WA 文 (2 0 FD WA 茂)	常無務通信法上移動局 (RodCap及びeRodCap)
	(3) 証明規則第2条第1項第11号の34に	掲げる無線設備
	設備規則第49条の6の13第1項(第	一号から第三号までに保る部分に限る。) に
	いてその無線設備の条件が定められている!	陸上移動局に使用するための無線設備
	(略称)	
	TOOMS: 新~2GB: 新5C-FDMA又(10FBMA携務)	無務通信陸上移動局
	(4) 証明規則第2条第1項第11号の34の	2に掲げる無線設備
	設備規則第49条の6の13第1項(第	一号、第二号及び第四号に係る部分に限る。
	においてその無線設備の条件が定められて!	いる陸上移動局に使用するための無線設備
	(略称)	
	TOOMIL者~2GIL者SC-FIMA又(10FIMA携者)	無線通信陸上移動局(RedCap及UeRedCap)
	神楽量学の飛花	
	(1) 技術基準適合証明における特性試験の格:	ê .
	室内の温程度は、JIS Z8703に	上6常温5~35℃の範囲、常提45~85
	(相対程度) の範囲内とする。	
	(2) 認証における特性試験の場合	
	上記に加えて周波数の偏差については、i	温温度試験及び振動試験を行う。詳細につい
	は、各試験項目を参照すること。	

一般事項のつづき	SG-PDMAXROPDMARLERS
1000	
(1) 技術基準適合証明における特性試験の)	聯合
電源は、定格電圧を供給する。	
(2) 認証における特性試験の場合	
	%を供給する。ただし、次の場合を除く。
ア 外部電原から受験機器への入力電圧:	が土10%変動した場合における受験機器の無き
	圧の変動が土1%以下であることを確認できた!
きは、定格電圧のみで試験を行う。	
	特定の変動幅内でしか受験機器が動作しない設ま
	変動幅の上限値と下限値が工事設計書に記載さえ
ているときは、定格電圧及び当該特定	の変動幅の上限値及び下限値で試験を行う。
4 学师河供取上学师写用	
(1) 受験機器の発射可能な周波数が3波以	下の場合は、全波で全試験項目について試験を引
5.	
(2) 受験機器の発射可能な周波数が 4 波以	上の場合は、上中下の3歳の周波数で全試験項目
について試験を行う。	
(3) 受験機器の無線周波数差が2、3GH	ェ帝~4、9GHェ帝の場合に限り、「スプリコ
ス発射又は不要発射の強度 (近径相互変)	調物性)」の試験を行う。
5 7649	
工事設計書に予整時間が必要である旨が明	記されている場合は、記載された子熟時間経過!
に測定する。その他の場合は、予熱時間をと	6 to 10.

TELEC-T161第 (第6.0版)

- 3 -© 2019-2025 Telecom Engineering Center

一般事項のつう自 SG-PDMA又除OFDMA由上参数局 **南北部の地波と牧巫寺** (1) 前定他に対する前定権度は、必要な試験項目において説明する。前定額は、較正され $P_{x} = \left(\begin{array}{c} \sum_{i=1}^{n} E_{i} \end{array} \right) \times \frac{S_{W}}{R \; BW \times k \times n}$ ここで、 下・: 市場場の電力能力(W) エ・: ドケータの内容値(W) エ・: 手場場(Mutra) エ・: 電場の(Mutra) エ・: できる(Mutra) とての機能が多いが、対象の平向ではなく、定MSで向を検索する。

- 4 -© 2019-2025 Telecom Engineer

- 1 -© 2019-2025 Telecom Engineering Center

_	-	-	_	_	_	-	Ė	_	Ė	 1,10		- 400
-		į	,	c		_	,			(%	п	0.061

3) 内羅又は外部試験装置を用いて次の機能が実現できることが	望ましい。
ア 試験用波数に設定する機能	

- 6 -© 2019-2025 Telecom Engineering Center

- 2 -© 2019-2025 Telecom Engineering Center

SG-FDMAXROFDMARLSRA

なぜけったの。機能などは高速性の機能などが、は他に対する時間は 30 やますアメディン・スタ間(には上の機能を特別に関いては、 後の間報が、う」を取りる時かには、一な紅環境の機能をとっては環境の他を持続し の間の場合にあらられずる。 く)やナファブメディン・ンと同じ、日本では、自然では、自然では、自然では、 をはいて、のでは、自然では、自然では、自然では、自然では、自然では、 のでは、ことでは、自然では、自然では、自然では、 のでは、ことでは、自然では、自然では、 のでは、 の

(3) アンカーとして使用する販金会は、「空中移電力の偏差」の試験を保き、キャリアア リゲーションとして振わない。 (6) 「RedCap」は「Reduced Capability」、「eRedCap は「enhanced RedCap」の概称である。

分 章 语 基 SC-PDMAZKOPDMA施上容器與 10998 1 (1) 美術館を持ち続く(発酵器を含水の薄を増生している部分 等により、製料が 数別の製料に設定する。
(2) 新鮮化剤は、2分割を利用では、2分割を用じませるが終める場合。 新味の製料のは、水のではながらかれたは、、製料物のは実施がは、設 能を成りかれた。水のではながらかれたは、、製料物のは実施がはながませない。 かったたくに、3分割をは、実施をかった成立にないませない。 かったたくに、3分割をは、(機能を使用が成立しない)をし、実施を対して、「機能を 水・切り2 の3分=機能を使用が、の即で可能数を使えるからさら、ケスから、13 が到まり、2分割と、1分割を使用が対けができる。 は、最近的機能は、実施性能のながで可なが、実施を対して、ただし、大ななが可能 のそんでも、13分割((機能のの対すを研究を提供する。ただし、かななが可能 のそんでも、13分割((機能のの対すを用している。)と、「数数を使用して、行るから のそんでも、13分割((機能のの対す機能となった)と、大ななが可能 のそんでも、13分割((機能のの対す機能となった)と、では、1分割をは のそんでも、13分割((機能の対す機能となった)と、では、1分割を使用して、行るから のでは、2分割を対して、1分割を使用でも、1分割を使用して、ではから があるが、2分割を使用でも、2分割を使用でも、2分割を使用して、2分割を 1分割をして、2分割を対して、2分割との表別では、2分割で 関連条件中間 (1) 受験機器を取付計具(受験機器を通常の後着状態と等しくする器具)等により、振動器

#20-FDMAXROFDMARLESRA 接着基準 移動局の逆候装置は、実際上起り得る製動又は衝撃によっても周波数をその許容偏差 いけんものでなければならない。 9するものでなければならない。 参照条文 設備規則 第15条 第3項

分 集 集 基 SC-FDMATHOFDMAMEEVAN

サ 章 春 春 BO-FDMA又はOFDMA独上宇島時



条約600分割。 1) 原文の温度技術に設定して、交換機器を温度技能機所の放棄しているときは、交渉 機器を参助的状態(電路OFF)とする。 2) 現立の放棄時期延縮機能(環度状態にあっては常温を温の状態に戻した後)、交換機器が 動作構造を行う場合は、交換機器が大勢関度数に戻せして過ぎの使用状態で退化する。

- 受験機器を非動作状態として温度度試験槽内に設置し、この状態で温温度試験槽内に 温度を低温(0℃、-10℃、-20℃のうち受験機器の仕様の範围内で最長のもの)

- 1作させる。 対験装置を用いて受験機器の周波数を測定する。(注2)

ЖЕДИМО->ЭВ БО-ГОМАХИОГОМАНЬВИЯ 3) 原式原 ・ 交換報節を申請の終告として高度式契機等れに設置し、この状態で高度式契機的 組成さっませた。 報号指定である北北交機構設の世間の最高度定に設定する。 と一の状態で3-4機関連ます。。 ク 上記との時間を最近、高度定式機能の成立を高度能ので限に戻し、設置していな ことを電圧した後、度で電路電圧(注:) を加えて交換機能を動作させる。 エ 実施別能を用いて受換機能の固定を使だった。(法2)

外部 飲辦袋器 8(819) . 民機構造の状態 (1) 外部試験装置から試験信号を加える。 (2) 試験開度電影で踏大出力に設定し、連絡誘信反應又は締結的パースト派信任略とする **初北条件中間** 受験機器の周波数を測定する。 参発の商本 同故数の例定能をMHェ単位又はGHェ単位で表示するとともに、例定能の割当周故数に3 する報告をHェ単位で(+)又は(-)の背号を付けて表示する。 ・ 株工部分(1) 外部が発後度の基準周波数が、受験機器の周波数に影響することに提定する。(2) 受験器を修定調度をとすることができる場合は、周波数針としてカウンタを用いましてもより。

●映像器の吹撃 (1) キャリアアグラゲーションを構成し、連続する複数の報送波を同時に送信する。 (2) その他は、「周波数の偏差(1)」を参照すること。 **商品の数ポ** 「周波数の偏差(1)」を参照すること。 複点 製物 (1) 連抜する 原東の 販売館 を回称に出信した状態で各種 必然の 同数数を開定できない 一の 販売値 ことに適を行い、その販売をの 同業数を削定してもよい。
(2) その他は、「周故歌の 偏差 (1)」を参照すること。

道用機関:キャリアアグラグーレッンを用いて追旋 に適用する。

初末時間 「国政数の偏差(1)」を参照すること。

知定部の条件を 「顕微数の偏差 (1)」を参照すること。

TELEC-T1618(Rd.05 表 数 項 月 対 本 名 名 月齢数の報(5) 90-FDMATMOFDMAE上等条列 間:キャナアアクターションを示いて適回しない意のののかっ… 最に扱ける。 製水成貨幣 「同館数の偏差 (1) 」を参照すること。 **御定路の条件号** 「関波数の編金(1)」を参照すること。 **製水路作中項** 各級透波について、周波数を測定する。 **商品の表示** 「周波数の偏差(1)」を参照すること。

現主制度
(1) 設成しない模倣の販売変を同時に近似した技術でも販売速の周波数を何定できないとは、一の販売放ことに登録を行い、その販売扱の周度数を測定してもよい。
(2) その他は、「周波数の偏差 (1)」を参照すること。

御倉県故閣 「周波数の編巻(1)」を参照すること。 **別定型の条件等** 「周波数の偏差(1)」を参照すること。 **受済器の収益** 「周波数の偏差(1)」を参照すること。 **別定品作中間** 「周波数の偏差(1)」を参照すること。 **協議の政界** 「周波数の偏差(1)」を参照すること。 **税知数的** 「周波数の偏差(1)」を参照すること。

教 教 項 目 対 由 基 治療療験機関(1) 80-FDMAX20-FDMAR29条局

在省別股政府部(1)のつづ台 p C-FDMA又はOFDMA放上市場別 **節張の表示** 上有周波数階級の測定値をMHII単位で表示する。 表面類(1) 3 (3) で販定すらか有利商款商額が最大とから飲意とは、実施方式 (QFSK、16 (3) 3 (3) で販定するか有利商款商額が最大とから飲意の場合せて決定される通信条件のやする有限政務報が最大となる状態で、かつ、その信仰者に加いて最大以内の収息をいう(2) 3 (3) で販定する本有限政務報が最大となる状態の外来が消費な場合は、販定される数の企用を外面を担当。

於 東 東 田 対 条 基 基 占有用被数据数 (8) 第 0-PDMAXMOFDMA独上が発展 |勝:キャリアアグリダーションを用いて追加し 症に発用する。 **司在承述日** 「お有関教教務編 (1)」を参照すること。 **司定理の条件等** 「占有周波数機幅 (1) 」を参照すること。 | **治定体件学記** (1) 各類逆波について、占有周波数巻幅を測定する。 (2) 測定手順は、「占有周波数巻幅(1)」を参照すること **節限の数学** 「占有周波数素幅(1)」を参照すること。 **現止動物** 「占有周波数機幅 (1) 」を参照すること。

於 東 日 対 急 勘 基 占有用級数数数 (4) 9 C-PDMAX200PDMA独上字扱具 **知意承担** 「占有周波数券編(1)」を参照すること。 **旧立即の条件を** 「占有用点数者報 (1)」を参照すること。 - 実際部局の表面 「上本国政政務幅 (1) 」を参照すること。 | **別定集件中間**「上本国政政務幅 (1)」を参照すること。 **参風の表示** 「よ有周波数帯幅(1)」を参照すること。 **総基数数** 「お有用放散者幅 (1) 」を参照すること。

於 明 日 対 泉 泰 泰 スプラアス強烈又は不正発射の地皮 (密熱外保制) (1) # ローアDMA又及OFDMA協上等政府 (第2) (第2表がほより用皮を製価)
3031 (第2表がほより用皮を製価)
3031 (第2の用皮を製価)
分配を整く下的皮 定を使えてが最近れるが同(第3)
表大のイイミットシックとなる難(例 2キー 形式のイイミットシックとなる難(例 2キー を選出がレルルター10~134 日田田茂) 400 配紅上(例 1001点) 18 部別商業報名、ROSIDSTO, するの間報知名。 するの間報知名。 対象の間報知名。 第四日間報報名(2.5MIR-7.2 MMT2) 総合機構名(7.5MIR-7.2 MMT2) 総合機構名(7.5MIR-7.2 MMT2) 総合機構名(5.5MIR-7.2 MMT2) 総合機構名(1.5MIR-7.2 MMT2) (1.5)

- 17 -© 2019-2025 Telecom Engineer

- 18 -© 2019-2025 Telecom Engineering Cente

- 19 -© 2019-2025 Telecom Engineering Cented

- 20 -© 2019-2025 Telecom Engineering Cent

デアス連針又位不明直針の象官 管境外開境)(i)のつづき ### APPLICATION OF POPULATION OF POPULATION

デリアス芸計ス位不製造計の単位 (物質の製質) (1) かつづき ちの-アコMA又はOFコMA除上参唱用 (2) 不要発射振順測定時のスペクトルアナライデの設定は、次のとおりとする。 中心周波数 提索した不要発射の周波数 接引周波敦福 分解能带坡福

プリアス発育文化不完発射の徹底 (安装外現実) (1) のつづき の アリビルスはOFDMA後上参議時

スプリアス無針又北不延長計の単立 (管弦外間線) (1) のつづき) で規定する提引周波数幅は、(分解能療域幅/2) の療域幅分内側に設定し 6.21%。 (2) 3 (3) で規定する無効系領域における不要発射の施式が最大となる影響とは、実置 式(ロア3K、18 GAMS等)、サプマトラア選集、サプマトラア電等の総合でで定定 れる認信条件の中で、実際通程以北近郊部の海線形位による不実発材が最大となる状態 かっ、その認信条件において最大的のが感覚がう。 (3) 3 (3) で設定する不要能的の減が減大となる状態の特定が減度な場合は、異定さる関係の情能が表が減なが、また。 の環境の経過率が高速を行う。

(北京教習 スプラアス発射又は不要発射の強度(非城外領域)(1)」を参照すること。 のスペクトルアナライザの設定は、次のとおりとする。 (1 所引用を報任、たくとおうだち、 サイン開始で終日:10MH×つちのMH×つちのMH×) と可用度を整めてのご開発 = (30MH×つちのMH×) と可用度を整めてのご開発 = (30MH×つちのMH×) と可用度を整めてのご開発 = (30MH×つ150MH×) と可用度を要ねてのご開発 = (30MH×つ150MH×) と可用度を要ねてのご用金 = (30MH×つ150MH×) と可用度を要ねていご用金 = (30MH×150MH×)

共 計 項 目 対 条 項 基 スプラフス会社エエス同義的の株式。 (者等人供給) (2) GO-FDMA放社のFBM

80MHx 心局故数± (90MHx~91MHx) 心局故数± (91MHx~95MHx) 心局故数± (95MHx~270MHx) 心局故数± (270MHx~275MHx) 00MHx

(ペクトルアナライザの設定は、次のとおり 探索した不受発射の周波数 の H z 3 O k H z (注 2 の周波数範囲) 1 M H z (注 3 の周波数範囲)

製金数子製 「スプラアス発射又は不要発射の施度(普進外振敏) (1)」の4 (1)から4 (4)まい 中のボーちこと、ただし、スペットルアナライデの設定は、本球機項目の2 (1)から2 (2

国産利政国 「スプリアス発射又は不要発射の強度(希域外領域) (1)」を参照すること。

関立部の条件等 「スプリアス発射又は不要発射の接度 (普減外振端) (1)」を参照すること。 関連集件や開 「スプリアス発射又は不要発射の強度(着域外領域) (1)」を参照すること

 表 表 項目
 対 条 機 基

 スプリアス会社又比不可免針の設定 (スプリアス保証) (1)
 \$O-FDMA又はOFDMA設上学商局
 外部 試験装置 スペクトルファッチ マンピュータ 交換機器 定額位号 別生器 8.1 部分前表現長以の報酬報報の設定は、次のとおかますも、 (すの知知: ボース: 3.5(3:8) 分配差別報 労利司事業 分配金 1.50 km; 1.50 km; 1.50 km; 2.50 km; 1.50 km; 3.50 km; 3.00 km; 1.00 km; 4.70 km; 6.70 km; 6.

メプリアス発射スポ不再発射の単数 (スプリアス保険) (1)のつづき # O-FDMAX社のFDMA独上参照用 2, 30 MH - 72, 37 GMH - 68 C.) 1 MM - 8 C. 1 MM - 8 C.

- 35 -© 2019-2025 Telecom Engineering Center

- 39 -© 2019-2025 Telecom Engineering Conte

東流視距 「スプリアス発射又は不要発射の強度 (スプリアス領域) (1)」を参照すること

質定器の条件等 「スプリアス発射又は不要発射の強度(スプリアス領域) (1) 」を参照すること。

(2) でかね。
(2) である。
(3) である。
(4) TRADPON (211) を利用できません。
(1) であること、2) (1) である。
(2) (1) であることが、10 MMI である。
(2) (1) であること (2) (1) であることが、10 MMI である。
(2) (1) であることが、10 MMI であることが、10 MMI である。
(2) (1) であることが、10 MMI である。
(2) (1) である。
(3) (1) である。
(4) である。
(4)

表 数 君 日 対 本 数 基 スプラアス発射文法で展開的の設立 (国産村東京教育的会) | | ローアDMA文社OFDMA他上事業員

| 交換協分 | 接合器 | 接合器 | 接合器 | スペクトル | アナライザ

排引周度数幅 分解能物域幅 ビデオ物域幅 排引時間 Y軸スケール 入力レベル

ゲータ点数 排引モード 検波モード 表示モード

全事機能の大型 (1) セキリアアプラグーションを構成し、連続する複数の搬送波を同時に送録する。 (2) その他は、「スプリアス発射文は不要発射の強度(スプリアス製製)(1)」を参照 ること。

	TELEC-T161% (%s. 0%)
スプリアス芸計又称不良発針の単方 (スプリアス保祉) (1) のつづき	♀○・PDMA又除○PDMA胎上御勘局
(3. 5 G H z 希~ 4. 9 G H z	幣)
排引用波散幅	分解影響域幅
7 7 0 MH z ~ 8 0 3 MH z	1 MH z
8 6 0 MH z ~ 8 9 0 MH z	1 MH z
9 4 5 MH z ~ 9 6 0 MH z	1 MH z
1, 475.9MHz~1, 5	10.9MHz 1MHz
1, 805MHz~1, 880	MH z 1 MH z
2, 010MHz~2, 025	MH z 1 MH z
2, 110MHz~2, 170	MH z 1 MH z
2, 3 3 0 M H z ~ 2, 3 7 0	MH z 1 MH z
往3 排引時間は、1 データ点当たり	1 バースト周期以上となる時間とする。
(3) 不要発射振幅測定時のスペクトルアナ	ライザの音字は、水のとおりとする。
中心間波数 指示した不要	
排引周波数幅 0 H z	
分解能療験幅 (注1)(注	2)
ビデオ教城福 分解能療域福	の3倍程度
接引時間 测定额度が保	証される時間
Y 幅スケール 10 d B / D	i v
入力レベル 最大のダイナ	ミックレンジとなる値
排引セード 単排引	
検波モード RMS	
(4) 不要発射探索時のスペクトルアナライ	ぞの設定は、次のとおりとする。
排引周波数幅 4 7 0 MH z	~ 7 1 0 MH z
分解能療域艦 1 MH z	
ビデオ教育様 分解放療験機	上回程度
接引時間 测定转度扩张	証される時間(注4)
Y 幅スケール 10 d B / D	i v
入力レベル 最大のダイナ	ミックレンジとなる値
データ点数 400点以上	(9 1001dt)
排引で一ド 単排引	
検技モード RMS	
	ースト周期×任意の自然数)とする。

- 33 -© 2019-2025 Telecom Engineer - 34 -© 2019-2025 Telecom Engineering Center

スプリアス発射又は不可急射の影響 (スプリアス開始) (1) 60-78 (1) 个契照的VPMへのないのない。食売する。(2) 多数点を食売する場合は、許容値の普集ごとにレベルの降原に並べて食売する。

スプリアス発射スは不明光射の徹底 (スプリアス開始) (1) のつづき **節肌の数率** 1) 不要発射の強度の測定値を測定界域ごとに関放数とともに、技術基準で規定する単位 9圧フィルタを使用する場合は、測定値を補正する必要がある。 ・下根文する知识関係物部は、(今軽効素情報/ファ)の環境部の内側に除文1。 もよい。 (3) その依は、「スプリアス発射又は不要発射の指度(機能外偏能)(1)」を参照する

- 36 -© 2019-2025 Telecom Engineering Cente

スプリアス掛射ス位不販接触の単立 (メプリアス倒動) (2) のつうき **締集の表示** 「スプリアス発射又は不要発射の強度(スプリアス領域) (1) 」を参照すること

於 数 度 日 対 章 器 器 スプリアス発射又は不可強的の改変 (スプリアス発射又は不可強的の改変 (スプリアスを図明) (8) ちの-テロMA又はのテロMA独上が復興 **国北京会官** 「スプリアス発射又は不要発射の強度(スプリアス領域)(1)」を参照すること **節限の政策** 「スプリアス発射又は不要発射の強度(スプリアス領域) (1)」を参照すること。 東京日報 (1) 条階を書いてた試験を行う。たがし、複数の搬送をつうり、一の搬送をのチャネル (1) 条配をたい場所を取りませた。 (1) 表面になった場所を対しては、現場一の搬送をのチャネル関係になった日報を収止は最近の施設をからませた。 (1) 大田一の機送をのチャネル関係になった日本研究はは自然の施設を含まれた。 (2) その他は「スプラフス模材とは不要発射の機度(スプラフス模域)(1)」を参照する。

TELEC-T161第 (第6. 0版)

 TELECTIS (第 (第 6.0)

 表 表 項 目
 対 点 基

 メプラア水油放送不安局的の限度 (スプラア公開稿) (4)
 対 ロードDMA.T放OFDMA能上等商品
 E月後回:Rotヴェッ及びοRotヴェッの効何伯数に適用する。 関連成長期 「スプリアス発射又は不要発射の強度 (スプリアス領域) (1)」を参照すること。 数数数0条件等 「スプリアス発射又は不要発射の強度 (スプリアス領域) (1)」を参照すること。

の形型は、他の上が上です。 原型部が低にデザ用機を(は) 原型部が低にデザ用機を(は) 303H1-1MH2 の発達を構成して回転で 原型機を経過される時間(は2) 1043/211 1043/211 耐力のが出たが、1043/21 単型的とは、1043/211 耐力のが出たが、1043/21 可の出たが、1043/21 可の出たが、1043/21 可の出たが、1043/21 可能が、1043/21 可能が、104

4-010 MH z 排列周故数据 9-375 MH z 9-375 MH z

スプリアス亜針又及不要強折の指定 (操性和工変的特性) (1) のつづき	9 C-PDMA	双拉OFDMAML###用
チャネル開展 2 0 MH z		
	排引用放散幅	信号発生器の開波数
	19.095MHz	f 2 0 MH z
f 4 0 MH z	19.095MHz	f 2 0 MH z
f + 4 0 MH z		
f 8 0 MH z		
	19.095MHz	f , + 2 0 MH z
	19.095MHz	f - + 2 0 MH z
f 4 0 MH z		
f -+ 8 0 MH z	19.095MHz	f = + 4 0 MH z
チャネル側隔25MH x		
中心周波敦	排引周波数幅	信号発生器の開放数
f _+ 2 5 MH z	23.955MHz	f 2 5 MH z
f 5 0 MH z	23.955MHz	f 2 5 MH z
f + 5 0 MH z		f 5 0 MH z
f 1 0 0 MH z	23.955MHz	f 5 0 MH z
f 2 5 MH x	23.955MHz	f . + 2 5 MH z
f -+ 5 0 MH z	23.955MHz	f - + 2 5 MH z
f 5 0 MH z	23.955MHz	f - + 5 0 MH z
f -+ 1 0 0 MH z	23.955MHz	f = + 5 0 MH z
チャネル側隔30MHz		
中心周波数	排引周波数幅	保号発生器の開波数
f _ + 3 0 MH z	28.815MHz	f 3 0 MH z
f 60MH x	28.815MHz	f 3 0 MH z
f -+ 6 0 MH z	28.815MHz	f 6 0 MH z
f 1 2 0 MH z	28.815MHz	f 6 0 MH z
f 3 O M H z	28.815MHz	f + 3 0 MH z
f -+ 6 0 MH z	28.815MHz	f = + 3 0 MH z
f 60MH x	28.815MHz	f - + 6 0 MH z
f -+ 1 2 0 MH z	28.815MHz	f - + 6 0 MH z

信号発生器の周波数 f = 50 MHz f = 50 MHz f = 10 0 MHz f = 10 0 MHz f = 150 MHz f = +50 MHz f = +10 0 MHz f = +10 0 MHz

信号発生器の周波数 f = 90 MH x f = 90 MH x f = 180 MH x f = 180 MH x f = 90 MH x f = 90 MH x f = 180 MH x f = 180 MH x

(国務部北京東市) 原法命予制 1) スペラトルフナライチの指定を2 (1) とする。 1) スペラトルフナライチの指定を表現を表現の表現、得引用金額線を技術名称で変更 一ペールでの最初場合に知って、チャネル関係

関水場保留 「スプリアス発射又は不要発射の強度 (送信報及変調特性) (1)」を参照すること。

表 表 写 目 分 条 巻 巻 スプリアス会社又は不審論計の金女 (後後和正文節等的) 50-9DMA文法の9DMA衛上等電路

| 1-2 OMM | 1-3 f = - 1 2 0 MM z f = - 1 2 0 MM z f = - 2 4 0 MM z f = - 2 4 0 MM z f = + 1 2 0 MM z f = + 1 2 0 MM z f = + 2 4 0 MM z f = + 2 4 0 MM z 銀号発生器の関放数 f = 130 MHz f = 130 MHz f = 260 MHz f = 260 MHz f = 130 MHz f = 130 MHz f = 120 MHz f = 260 MHz 信号発生器の周波数 f = - 1 4 0 MH z f = - 1 4 0 MH z f = - 2 8 0 MH z f = - 2 8 0 MH z f = + 1 4 0 MH z f = + 1 4 0 MH z f = + 2 8 0 MH z f = + 2 8 0 MH z

148. 615MHz 信号是生器の周該数 f=-160MHz f=-160MHz f=-320MHz f=-320MHz f=+160MHz f=+160MHz f=+320MHz f=+320MHz 信号是生器の周波数 f = -180MHz f = -180MHz f = -360MHz f = -360MHz f = +180MHz f = +180MHz f = +360MHz

意味の表示 「スプラアス発射又は不要発射の強度(送信相互変調特性) (1)」を参照すること。

建長恒明 「スプリアス発射又は不要発射の強度(逆位相互変調特性) (1) 」を参照すること。

	* * * *	* * * *
1		SO-PDMAXROPDMARLES
「在グラブの地域以下開発的の数(信息和以及開始)(1)」を参照すること 「加速の内性 ハッチアル発力以下開発的の数(信息和以及開始)(1)」を参析すること		連携しない複数の観測数を同時に過ぎする別
「なアプラルを対比に可能性の発度(信仰以及契例的)(1)」と参照すること		(保和石炭調物性) (1)」を参照すること。
(3) キャプアグリゲーションを機成し、進化しない報告の機能を採用いた記せてか、 (3) その他は、「スプラアス条状以下が発生が内臓(治療料を実用的)(1) 月 作 するため、 「お飲みず別。 「お飲みず別。 「お飲みず別。」 「おいかす」 「おいかまります」 「おいかす」 「おいかかす」 「おいかす」 「おいかす」 「おいかす」 「おいかす」 「おいかす」 「おいかす」 「おいかす」 「		(信報五変調特性) (1)」を参照すること。
4 新製造の中間 「エイサアンを附立立工工業を制め換度(近日和工業開発性)(1)」を参照すること。 5 諸氏の記録 「スプリアンを附立立工工業を制め換度(近日和工業開発性)(1)」を参照すること。 4 現我的 4 現我的 4 現我的	(1) キャリアアグリゲーションを構成し、(2) その他は、「スプリアス発射又は不要	
「スプリアス発射スは不要発射の強度(逆位相互変調的性)(1)」を参照すること。 ・ 機丸動物	4 наменя	(保租圧変調物性) (1)」を参照すること。
		(保報互変調物性) (1) 」を参照すること。
		保和互変調物性) (1) 」を参照すること。

* * * 1	* * * *
スプリアス発射炎は不振振動の機能 (機能器を振動性)(4)	# C-F DMAXROF DMA體上學像》
当月後回:兄・ もCェッ及び・兄・ も Cェッの	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
1 製力減機期 「スプリアス発射又は不要発射の強度(送	信相互変調等性) (1) 」を参照すること。
■ 製金器の条件等 「スプリアス発射又は不要発射の強度(逆	保相互変調等性) (1) 」を参照すること。
8 契数衛星の実置 「スプリアス発射又は不要発射の強度(近	保相互変調物性)(1)」を参照すること。
4 資本条件子面 「スプリアス発射又は不要発射の強度(近	保相互変調特性) (1) 」を参照すること。
5 整風の表示 「スプリアス発射又は不要発射の強度(近	保相互変調物性)(1);を参照すること。
株品銀行 「スプリアス発射又は不要発射の強度 (逆)	保相互変調等性)(1)」を参照すること。



- 49 -© 2019-2025 Telecom Engineering Center

- 50 -© 2019-2025 Telecom Engineering Center

- 51 -© 2019-2025 Telecom Engineering Center

- 52 -© 2019-2025 Telecom Engineering Cente

	TELEC-T161% (%6. 0)
室中発電力の資産(1)のつづき	\$ C-FDMAXHOFDMA B L \$8 ,
相及性明	
(1) 2 (1) において、スペクトルアナラ	イデの検波モードをRMSに設定して測定する。
合は、電力計に代えてスペクトルアナラ・	イザを用いてもよい。ただし、電力針を用いた)
定結果と同等となることを事前に確認す。	6. (ii:1)
注1 スペクトルアナライザの中心開放!	数を搬送故間波数、排引周波数幅を技術基準で
定する占有間波散帶幅以上、提引時	間を測定精度が保証される時間 (例 データホ)
×1フレーム時間 (10m×)×任)	窓の自然数)、表示モードをRMS平均、排引!
数を10回以上に設定して提引用波!	数幅内の電力総和を求める。求めた電力総和に
一スト時間率の逆数を乗じた値を測1	定値とする。
(2) 3 (2) で解定する最大出力となる余年	新とは、変調方式 (QPSK, 16QAM等) .
サブキャリア問題、サブキャリア数等の8	組合せで決定される中で、最大送信電力となる!
態をいう。	
(3) 3 (2) で繋ぎする最大出力となる余(親の物字が困難な組合は、推定される複数の決し
条件で測定を行う。	

京 東 東 日 対 条 基 基 型中開始力の相談(3) 6 O-PDMA及はO-PDMA動と影響所 ijj:キャリアアグリダーレョンを) に選用する。 **商産系統官** 「空中線電力の偏差(1)」を参照すること。 **間点器の条件等** 「空中線電力の偏差 (1) 」を参照すること。 受政務部の保証 (1) キャリアアグリダーションを構成し、連続する複数の期近波を同時に近信する。 (2) その他は、「空中職電力の偏差(1)」を参照すること。 **電光路停平期** (1) 「空中線電力の偏差 (1)」を参照すること。 (2) 連続する複数の搬送波の空中線電力の維和を求める。 **自集の変**(1) 「空中将電力の偏差 (1)」を参照すること。
(2) 空中将電力の緩和を求めたときは、割定値の認和のはか、各空中排漏子の測定値を共する。
する。 **税払前務** 「空中終電力の偏差(1)」を参照すること。

R 款 項 日 対 乗 級 基 者中接種力の個数(8) 9C-PDMAZWOPDMA施上学務局 関連課題 「空中総電力の偏差 (1)」を参照すること **電影路子展**(1) 「空中勝電力の偏差(1)」を参照すること。
(2) 技術基準に応じて複数の搬送波の空中最電力の総称を求める。 **総基価数** 「空中線電力の偏差(1)」を参照すること。

別点示辞器 「空中終電力の偏差 (1) 」を参照すること。 **東京日心条件で** 「水中終電力の偏差 (1) 」を参照すること。 **交換数据の支援** 「空中終電力の偏差 (1) 」を参照すること。 制定能作予期 「空中終電力の偏差(1)」を参照すること。 **齢長の表示** 「空中終電力の偏差(1)」を参照すること。 **港及保収** 「空中終電力の偏差 (1) 」を参照すること。

鉄 牧 項 日 対 泉 衛 春 棚中御眼力の部盤(4) 8 G-FDMA支柱のFDMA設上容軌所

- 54 -© 2019-2025 Telecom Engineering Center

- 55 -© 2019-2025 Telecom Engineering Center

TELEC-T161% (%6.0%)

* * *		* * *
開催ティネル保険電力	(1) BC-FDM	A.又はOFDはA.胎上寒!
株式:一の技術性を発症	ナる 単都集党に追用する。	
政党系統制		
2020	55	
0300	3090	2.00
安開信号 交換機器		トル ノボ ロ ロンビュータ
90.200	18400	3.7
現地部の条件等		
	Fの設定は、次のとおりとする。	
中心周波数 接引因波数幅	割定操作手順に示す開放数(注: 割定操作手順に示す開放数幅(注	
分解的物域框	別を保持予期に示す用数報報() 30kHz~1MHz	6.17
77年初年 10年 10年 10日	分解能療験幅の3倍程度	
10 G 10 HI	別定検度が保証される時間(注:	.)
Y軸スケール	104B/Div	
入力レベル	最大のダイナミックレンジとなる	(値 (倒 とキチ入力に)
	搬送波のレベルが-10~-15	d B m程度)
データ点数	400点以上 (例 1001点)	
排引で一ド	連続排引(波形が変動しなくなく	(±v)
検波セード	ポジティブピーク	
食売モード	マックスホールド	
21 4 4 1 1 1 1 1 1	こより、次のとおりとする。ただし、	C 10 MAJES DE TRI DE RE-
チャネル開展	中心開建数	排引用效数据
5 MH z	f. ± 5 MH z	5 MH z
	f = 2 5 MHz	4. 515MHz
	f = ± 1 0 MH z	5 MH z
1 0 MH z	f = ± 7. 5 MH z	5 MH z
	$f=\pm~1~0~MH~z$	9.375MHz
	f - ± 1 2 . 5 MH z	5MH z
1 5 MH z	f , ± 1 0 MH z	5 MH z
	f - ± 1 5 MH z	5 M H z
	f - ± 1 5 MH z	14.235MHz

は3 排引時間は、(データ点数×バースト周期×任意の自然数)とする。 (1) 外部試験表層から試験信号を加える。
(2) 試験固度数及び最大出力に設定し、連載送信款等又は継続的パースト送信款等とする。
(3) キー操作、制御器又は外部試験装置を用いて関級テナネル個後電力が最大となる状態に設定する。

最級テャネル製機能力(1)のつづき - 単〇-FDMAX社OFDMA施上参議局 のプロイルを開発が、10 code POTMARIO 7 DIAARIO 8 DIAARIO 7 DIAARIO 8 DIAARIO 7 DIAARIO 8 DIAARIO 7 DIAARIO 8 DIAA (7) 上側路接チャネル漏後電力比 (-101 og (P ✓ P ,)) 及び下側路接チャネル漏 電力比 (-101 og (P ✓ P ,)) を計算する。 4.3 時間ティネル関係電力の施利性の研究 (1) スペラシャプライの設定と(1) とでら、
(2) スペラシャプライの設定とも(2) とでら、
(2) スペラシャプライの公司配金を発送を指揮した場合を(3) 同様に実施を入り、
(3) 間はに実施を対した場合を対してある。
(4) 日本により、
(4) とは、
(4) とは、
(5) とは、
(5) とは、
(5) とは、
(6) と を求める。
(6) 上記(6) で求めた電力総和にバースト時間率の逆数を乗じた値を削定値とする。
(7) スペクトルアナライザの中心周波数を駆改使間波数の下側の現定の機関周波数(法1: 近接まし、上傾隔地チャネル機能数カンド機能上下解隔地チャネル機構変力を求める。

高級テヤネル製造電力 (1) のつづき 単 O-FDMAX社OFDMA独上参議員 協議の途差 上解談が十年を掲載電力に及び下削減終サイネの関表電力比の期定値、又は上解談が 外間後電力及び下削減終サイネル関表電力の測定値を技術基準で規定する単位で推奨目前 ととに表示する。 2.548年 13 13)で包含する開始ナーネル最高電力が最大となるが思うとは、実調方式(QPS) 14 QQAMB)、ラブターはブア原本、ラブターは丁安集の応信や工を定される登場合計一 中で、実際機能は工程を向から開始性による不要発射が最大となる状態で、かつ、その2 回番杯に加いて最大出力の状態をいう。 (3) 2 (3) で設定する解析である実施電力が美たとなる状態の有定が展立を含む。またなら後できるが表生が展立を含む。またならを含まるの特定が展立を含む。またならを表定されるである。

条 東 東 # 本 本 本 日 日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日			TELE	C-T161% (%6. 0	(SI)
道用機関:キャリアアグリグーションを用いて当然する機能の機能致を同時に発信する動物機関 と進用する。	A 10 T		*	4 8 4	_
比湖州 十名。	開稿チャネル開稿電力	(2)	BC-FDMA	文はOFDはA輪上零条筒	Ξ
1 資文明機能		ションを用いて言	(数する資政の提出	教を同時に登録する動物機	
「隣接チャネル網後電力(1)」を参照すること。		(1)」を参照する	i= 8.		
3 可定部の条件号 (1) スペクトルアナライギの設定は、次のとおりとする。					
(1) スペクトルアナライナの数定は、次のとおりとする。中心固度数 測定場件手順に示す開度数 (注1)					
中心周旋転 例と操作于順に示り周旋転(h1) 接引開放数略 例が場件手順に示す開放数略(h1)					
分解影響解解 30kHz~1MHz					
ビデオ教練幅 分解節者雑幅の3倍程度		分解能療験程式	3位程度		
接引時間 測定額度が保証される時間(在2)	额引种侧)	
Y 輸スケール 1 0 d B / D i v	Y輪スケール	104B/DI	v		
入力レベル 最大のダイナミックレンジとなる値(何 ミキサ入力における	入力レベル	最大のダイナミ	ックレンジとなる	値(何 ミキナ入力におけ	6
搬送波のレベルが-10~-15dBm程度)		搬送波のレベル	±-10~-15	d B m程度)	
データ点数 400点以上 (例 1001点)					
接引モード 連続接引(被形が変動しなくなるまで)				±7)	
検波モード ボジティブピーク					
表示セード マックスホールド	表示モード	マックスホール	, Jr		
第1 チャネル側隔の総和により、次のとおりとする。ただし、f。は、近径開始数率				471 4 10 10 10 10 10 10 10	_
6.1 アイナル関係の抑制により、次のごおりごうる。ただし、1-12、近期用数報用 減の中心開放数とする。			10207070.12	CL, I-II, EMMER	
チャネル関係の総和 中心高波数 提引高波数幅			and a	排引用效数框	
110MHz (-±110MHz 109.375MHz					
120MHz (-±120MHz 119.095MHz					
130MHz (-±130MHz 128.815MHz					
140MHz f-±140MHz 138.895MHz					
150MHz f-±150MHz 148.615MHz	1 5 0 MH :	1.±	1 5 0 MH z	148.615MHz	
160MHz f,±160MHz 158.35MHz	1 6 0 MH :	1.1	1 6 0 MH z	158.35MHz	
180MHz f-±180MHz 178.15MHz	1 8 0 MH :	f - ±	1 8 0 MH z	178.15MHz	
200MHz f-±200MHz 198.31MHz	2 0 0 MH :	f - ±	2 0 0 MH z	198.31MHz	
注2 類引時間は、1 データ点当たり 1 パースト開業以上となる時間とする。	往2 祭引時間は、1	ゲータ点当たり 1	パースト開業以上	となる時間とする。	

即位ナイネル協権を力(2)のつづき # C-FDMAX220FDMA独上等電荷 病定操作手順に示す周枚製幅(体1) 30kHz~1MHz 50kHz~1MHz 所能機械部の3倍程度 病定機度が保証される時間(体3) 10dB/D1v 最大のダイナンクレンジとなる値 解定機度が保証される点数 単等別 RMS 注3 語引動器付 (データを数×パースト開業×任業の自然数) とする 東映像器の吹笛 (1) キャリアアグリゲーションを構成し、連続する接款の報送液を同時に送信する。 (2) その他は、「開除チャネル製作電力 (1)」を参照すること。 **競集の政策** 「隣接チャネル関後電力(1)」を参照すること。 **4月前**野 「隣接チャネル関後電力(1)」を参照すること。

耐血液制 「廃放チャネル網枚電力(1)」を参照すること。 **調息器の条件等** 「開接チャネル顕夜電力(1)」を参照すること。 実施条準の実施:
 (1) キャラアアグリゲーションを構成し、連続しない複数の報送液を同時に送信する。
 (2) その他は、「関談チャネル圏疾電力 (1)」を参照すること。 **取扱限を→原** 「隣接チャネル顕複電力(1)」を参照すること。 **胎肌の表示** 「隣接チャネル漏技電力(1)」を参照すること。 ・ 単本報報
(1) 同時に逆分する複数の販売店の間の周点数数別においては、当該同時に逆分する複数の 販売板の間の関数数数例が多数逆波のより回数数者組込むの場合に限り、例定を行う。 (2) その他は、「開助ティギル機能力(1)」と参照すること。

1 **国産界政証** 「国接チャネル関技電力(1)」を参照すること。 **初京都の条件等** 「隣接チャネル網技電力(1)」を参照すること。 東路路の東部 「隣接チャネル網技能力(1)」を参照すること。 **別点条件中部** 「隣接チャネル網技電力(1)」を参照すること。 **節品の表示** 「隣接チャネル副技能力(1)」を参照すること。 **着某条項** 「隣接チャネル網技能力(1)」を参照すること。

- 65 -© 2019-2025 Telecom Engineering Center

1 MH x ~ 3 MH x 分解能準減幅の3 信程度 測定構度が保証される時間 10 d B / D 1 v 測定構度が保証される点数 単接引 R M S

3 別位的の発売 (1) の表現してこの知識を設定してシャットルデライダに方面が可を会れ、報意を (2) の表現したのか報告を記せるようなできた。 (2) ペイナンルデザイがの記せを (1) 点点 自然報告信用を参与して接続を の表表を注意で、(2) 所在した報告を発展を登ましたがありませての考され、 (3) 所はした報告を力の本人はいる知識を経過事業を登ましたがありませているがから、 (4) 版は、1 において非常を使る場合は、上級(1) の理をがい、ペイテル・デー ライザの記せる (2) において非常を実施を持てか。 (3) 総別規模技術のなが一分について非常常規模力から変力的を分割する。 (3) 総別規模技術のなが一分について非常常規模力から変力的を分割する。

前肌の意味 搬送波を送信していないときの電力の測定値を技術基準で規定された単位で開放数ともに

- 66 -© 2019-2025 Telecom Engineering Center

条 表 末 日 対 本 書 基 機能性を発性していないときの性力(4) 90-PDMAX地OPDMA際上等機用 |報酬:キャリアアグリグーションを| |応用する。 **衛女界使用** 「搬送彼を送信していないときの電力 (1) 」を参照すること。 **東北部の条件等** 「搬送液を送信していないときの電力(1)」を参照すること。 全計算の大学:
(1) キャラアアグリゲーションを構成し、道統する原数の販売液を同時に売後する。
(2) その他は、「搬売液を浸住していないときの電力 (1)」を参照すること。 **資金係を予算**(1) 「搬送液を逆径していないときの電力 (1)」を参照すること。(2) 「販送液を逆径していないときの電力 (1)」ののを適用する場合は、各級逆波にて測定を行うこと。 **油泉の表中** 「販売数を送信していないときの電力(1)」を参照すること。 **油品管明** 「搬送波を送信していないときの電力(1)」を参照すること。

- 67 -© 2019-2025 Telecom Engineering Center

条 装 項 日 対 条 基 基 機関軟を指揮していないとちの収力(6) 90-FDMA次だのFDMA技法等機関 |機能:キャリアアグリグーションを用 仮に発用する。 **製定の経営** 「搬送減を送信していないときの電力(1)」を参照すること。 **現実施の条件等** 「搬送波を送信していないときの電力 (1)」を参照すること。 全映画の気息
 (1) キャリアアグラゲーションを構成し、連続しない模数の販売液を同時に適信する。
 (2) その他は、「販売液を適信していないときの電力(1)」を参照すること。 **国金操作号** (1) 「販売液を送信していないときの電力(1)」を参照すること。
 (2) 「販売液を送信していないときの電力(1)」の6を適用する場合は、各販送款にて廃乏を行うこと。 **動張の歌呼** 「搬送故を送信していないときの電力 (1)」を参照すること。 **権品信仰** 「搬送被を送信していないときの電力 (1)」を参照すること。 - 68 -© 2019-2025 Telecom Engineering Center

表 表 項 目 対 急 易 巻 物理教を強信していないときの魅力(4) き G-FDMA又はOFDMA放上等助所 **別点示於器** 「搬送波を送信していないときの電力 (1)」を参照すること。 **東京日本条件を** 「搬送減を送信していないときの電力(1)」を参照すること。 **支持者を支援** 「搬送波を送信していないときの電力 (1) 」を参照すること。 **和左右の予算** 「搬送波を受信していないときの電力(1)」を参照すること。 **齢長の表章** 「搬送液を逆保していないときの電力 (1)」を参照すること。 **着工機構** 「搬送波を送信していないときの載力 (1) 」を参照すること。

- 69 -© 2019-2025 Telecom Engineering Center

於 被 質 日 対 急 集 基 副政権を持する複数等の限定(1) 5 C-FDMA支抗OFDMA独上参数所 **前末80余件**(1) 解似自僚(接政等) の減失量は、南定対象が低シベルのため、なるべく低い値とする。
(2) 前衣祭修理保持のスペラトルアナライギの設定は、次のとおりとする。
解引用皮製版 (4 年1)

が解影響機版 1008 Hz (1GHz 未満) シトルアナライギの設定は、次のと (株1)
 100kHz (1GHz未満)
 1MHz (1GHz以上) 分解原準減軽 (同程度 別定検索が展慮とれる特別 104H/D1v 400点以上 (例 1001点)
 非勝引 ボジティブビーク ビデオ帯域幅 排引時間 Y輪スケール データ点数 排引セード 検技セード (1 接到商業報の設定は、次の上おりとすら、 (70 MM + ボース: ZGH + 神) 3 GMM + イ1, 00 GMM + 1, 00 GMM + イ12, 7 3 GH : (3. SGH + ボース: 7 3 GH : 3 GMM + イ1, 00 GMM : 1, 00 GMM - 不規下の 同版集のと振用変数の3 命

- 70 -© 2019-2025 Telecom Engineering Center

部政府に向する電政等の発成(1)のつづき # O-FDMAXはOFDMA能上等指揮 受政制等の実施 (1) 制御祭以北外が政策資産を用いて受験情勢の迂切を押止し、状態周度数を逮捕交体す 状態とする。 (2) 適能受政体制につきない場合は、外部延勤資度等より状態は今を加え、状態周度数を 定の関係で現た分割でも実施とつる。 プログライン (1) スペトシャイナライが自定せま (2) とし、推引商業報介の高支管性を指する。 たし、角板開発機能を使用している場合は、その司令を得く。 (2) 商目に高速度等的関係の表現性的提出である。 (3) 商目に高速度等的関係の表現性的提出である。 (3) 商目に高速度等の関係の表現性的提出である。 を使用している場合を表現される。 というよこの機能を関係の表現が対象を使用し、スペトライナイがある。 というよこの機能を解析の19回路を19回路では、大小カルマナイイがある。 というよこの機能を指する。 (3) スペトシャナイタの記載と、19回路を19回路をある。 (4) スペトシャナイタの記載と、19回路を19回路をある。 (4) スペトシャナイタの記載と、19回路を19回路の下間を10・ストロディ版的、19回路の下間を10・ストロディ版的、19回路の下間を10・ストロディ版的、19回路の下間を10・ストロディ版的、19回路の下間を10・ストロディ版的では、19回路の下間を10・ストロディ版を10・スト 動泉の血学 副次的に発する電波の限度の最大の測定値を測定機械ごとに関波数とともに、技術基準で 定する単位で表示する。

部表換に存する保険等の現底(1)のつづき - #O-FDMA又はOFDMA除上申集局 (4) (2) のように連載を貸款者に設定できない受験機器は、受機機器の耐欠交債の同手 (3) (2) のように連載を受験がある。 (3) では、パイテトルフナライチの特別時間を衝変地度が超減される時間(月ナルタ出名とかの時別機能が支援の関係以上)に設定して耐定を行う。 (4) に加いて、受政状態の部次発酵がイースト状に発射される場合は、部次発材・イースト内平均電力を求る。

於 被 相 日 か 春 毎 巻 原文均に向する確認等の限度(4) 日ローテフMA工法ロフフ MA放上等条件 M:RodCooAFoRodCooの配 **別定用値間** 「耐水的に発する電波等の限度 (1) 」を参照すること。 **別及器心条件等** 「耐吹的に発する電波等の限度(1)」を参照すること。 **党政権権の支援** 「副次的に発する電波等の限度(1)」を参照すること。 **別を紹介予度** 「副次的に発する電波等の限度(1)」を参照すること。 節長の森孝 「副次的に発する電波等の限度 (1)」を参照すること。 **投入性何** 「副衣的に発する電波等の限度(1)」を参照すること。

- 71 -© 2019-2025 Telecom Engineering Center